

## ～ 目 次 ～

第1章 総論	．．．	2
第2章 各論	．．．	8
1 サポート機能	．．．	9
(1) 展示	．．．	10
(2) 学芸員による市町村等の支援など	．．．	12
(3) 調査研究機能・資料修復機能の強化	．．．	13
(4) 学習支援	．．．	14
2 ネットワーク機能	．．．	15
(1) 情報・施設間のネットワーク	．．．	16
(2) 研修・イベント等のネットワーク	．．．	17
(3) 調査研究・運営管理等のネットワーク	．．．	18
3 ネットワークセンター	．．．	19

# 第1章 総論

# 第1章 総論

## 1 はじめに

博物館は、社会の発展への寄与を目的として、古代から現代に至るまでの自然、生活、文化の諸相に関する事物を収集・整理・保存、調査・研究し、その成果を展示することを通じて、内容を分かりやすく人々に伝える機関です。その活動は次世代を支える人材を育成し、地域の自然や文化を守り、次世代に伝えるために極めて重要な意味を持っています。

特に近年定着しつつある、地域住民が「調査・研究」や「展示・学習」に主体的に参加するスタイルの博物館活動は、参加者自身の郷土の自然や文化への理解を深めるにとどまらず、様々な知識や経験を通じて、参加者が互いに成長し、自己実現を図るうえで大変有意義な活動です。

## 2 これまでの経緯

本県では、平成8年に県立博物館の基本構想を、平成10年に基本計画を策定し、これを熊本県宇城市(旧松橋町)に建設することを予定していましたが、平成13年の財政健全化計画策定を受けて、これまで建設を見送ってきました。

この間、県民の皆様等から熊本の自然や文化に関する貴重な資料を御寄贈いただき、現在、松橋収蔵庫には動物、植物、地学、歴史、民俗に関する資料約64万点が収蔵されています。平成19年には、熊本県自然・人文資料活用検討委員会からの提言「松橋収蔵庫の自然・人文資料の活用―県民参加の博物館活動をすすめる―」を受け、資料の収集・整理・保存に加え、収蔵資料を活用した展示・学習支援など県民参加を重視した博物館活動を進めてきました。

一方、この間、県内における博物資料の展示スペースは徐々に拡充されてきました。従来の県立装飾古墳館、県立図書館・近代文学館、県伝統工芸館に加え、平成14年には温故創生館、平成20年、24年には県立美術館に永青文庫展示室が順次整備され、さらに熊本市との政策連携の一環として、熊本市立熊本博物館における松橋収蔵庫所蔵資料を活用した展示の計画が進んでいます。

## 3 博物館をめぐる近年の動き

我が国において、博物館は、これまで第1世代と呼ばれる「保存」を中心とした活動から、第2世代(1970年代～)の「公開」、第3世代(1980年代～)の「参加と体験」へと、その活動の中心は時代とともに大きく変化してきました。

そして、90年代以降、若年世代への教育・学習に加え、高齢化社会の進展を背景とした知識好奇心の高い高齢者の増加に伴い、生涯学習の一つとして、より奥深く、実体験を伴う博物館活動へのニーズが高まり、自然や歴史に関わる「参加と体験」活動を深化させた第4世代と呼ばれる博物館活動が主流になっており、その要請はますます強くなっています。

#### 4 本県における今後の博物館のあり方

本県における今後の博物館のあり方を考える際には、このような時代の要請を踏まえつつ、熊本県ならではの特性を生かすことが求められます。

言うまでもなく、本県は装飾古墳、古代山城鞠智城、加藤・細川400年の文化、キリシタン文化、そして、近代産業遺産など、太古から連綿と続く歴史と文化の宝庫であるとともに、天草の海、阿蘇の山に代表される豊かな自然環境に恵まれ、「参加と体験」を軸とした博物館活動の対象となる資産に溢れています。

このような恵まれた資産が身近にあることによってはじめて、五感に訴える「参加と体験」の教育及び生涯学習上の効果が極めて高くなります。言い換えれば、こうした資産に恵まれた本県においてこそ、「参加と体験」型の博物館の理想的な姿を追求することができるのです。

参加と体験を軸とした博物館活動に参画する機会を県民が等しく享受するためには、人材や設備の充実が不可欠です。しかし、現実には、博物館がない市町村や、博物館があっても学芸員等の専門職員が不足していることなどにより、単独では充実した「参加と体験」を軸とした博物館活動を実践することが難しいところも少なくありません。

県は、こうした状況を打開し、本県の宝とも言うべき、自然、歴史、文化を素材として、多くの県民の知的欲求に応えるため、「県内どこに住んでいても博物館活動に参加・体験できる」、「熊本タイプ」の博物館を目指すこととします。

#### 5 熊本県総合博物館ネットワーク

県が目指す“熊本タイプ”の博物館とは、参加する各地の博物館が、協力しあってネットワーク全体として、あたかも一つの博物館であるかのように機能するものです。これにより、県民が県内のどこに住んでいても、等しくほぼ同様のサービスを受けられることとなります。

このネットワークを構築し維持するためには、ネットワーク自体の運営・管理主体に加え、ネットワークを構成する個々の博物館(市町村)を支援・サポートする機関が必要です。県はそのための機関として、現在の松橋収蔵庫を拡充して、ネットワークの中核施設(ネットワークセンター)と位置づけます。

ネットワークセンターにおいては、学芸員による市町村等の支援や収蔵資料の修復といった「サポート機能」に加え、県内博物館等との連携を図っていくために、各地の博物館の収蔵資料情報を共有し相互に活用する仕組みづくり、県内博物館の学芸員等を対象としたスキルアップ研修及び共同研究等の活動を中心とした「ネットワーク機能」を持たせることとします。

このような、ネットワークセンターのサポート機能やネットワーク機能を通して結ばれた各地の博物館とネットワークセンターからなる総体を、「熊本県総合博物館ネットワーク」と呼ぶこととします。

熊本県総合博物館ネットワークは、今後、ネットワークに参加する各地の博物館の協力の下、知的活動に「参加」する県民が増加し、そのことがさらに博物館の「活動」を活性化するという好循環を生み出すことを通じて、ネットワークに参加する各博物館と共に「成長」することを目指します。

## 6 “熊本タイプ”の博物館を通じたこれからの「参加と体験」

県では“熊本タイプ”の博物館を構想する段階から熊本県博物館協議会加盟館等に御意見を聞くとともに、アンケート調査を実施させていただきました。その中で数多くの博物館から収蔵資料情報の共有化や展示、自然観察会、講座、講演会など県と連携した活動をしたいとの期待が寄せられました。

今後、熊本県総合博物館ネットワークが機能することで、資料の相互利用が進み、より充実した展示が可能になります。また、複数の博物館が共同で行う調査研究の成果を活かした魅力的な展示の機会が増大します。博物館がない市町村においても公民館や学校と協力関係を築きながら、様々な展示が行われます。このように、これまで以上に身近な所で県民の皆さんに、魅力的で多様な展示を御覧いただけるようになります。

講座や講演、自然観察会などに関しては、県内各地の博物館が連携することや、ネットワークセンターから様々な分野の学芸員を県内各地に派遣することにより、県民の皆さんはこれまで以上に身近な所で多彩で特色のある催しに参加できるようになります。

こうして、身近な地域の自然や文化に興味、関心を持った方々が、インターネットを通じて自宅でも調査研究を行うこともできるようになります。さらに、その成果を展示等の形で発表できるよう、県内各地に様々な分野の活動を行なうグループを立ち上げるための支援を行います。そして、設立されたグループの運営・活動のサポートを行うことにより、県民の皆さんが継続的に博物館活動に参加できるようにします。

## 7 熊本県総合博物館ネットワークの機能と取組み

### (1) サポート機能

ネットワークセンターを中心に熊本県総合博物館ネットワークは県内の市町村や民間の博物館、更には地域住民に対して主として次に掲げるような支援を行います。

#### ① 展示による県内博物館及び博物館がない市町村等の支援

- 県内博物館の収蔵資料を相互に活用した展示
- 海外の博物館と連携した企画展の県内各地での開催
- 県内博物館、市町村、学校等でのネットワークセンター(現・松橋収蔵庫)収蔵資料を活用した展示
- 県民が参画できる展示(民間研究団体やミュージアムパートナーズクラブ)

- ②学芸員による市町村等の支援など
  - 専属の学芸員がない市町村や博物館等に対する支援
  - 展示会等を企画する総合プロデューサーの育成

- ③調査研究、資料修復支援
  - 調査研究環境の整備の検討
  - 資料修復センターの整備の検討

- ④学習支援
  - 出前講座、共催講座の開催
  - ミュージアムパートナーズクラブの設立支援、活動支援

## (2) ネットワーク機能

県内博物館の収蔵資料データベースの構築・運用など、県内博物館及び市町村等とネットワークセンターをつないで、熊本県総合博物館ネットワークが継続的に活発に活動できる体制作りを進めます。

- ①情報・施設間のネットワーク
  - 熊本県博物館資料データベースの構築及びポータルサイトの作成
  - 県や市町村、民間の博物館等施設との連携
  - 海外の博物館等とのネットワーク構築
- ②研修・イベント等のネットワーク
  - 学芸員の展示や資料保存に関する技能研修、意見交換会の開催
  - 体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催
- ③調査研究・運営管理等のネットワーク
  - 共同研究の実施、紀要(調査研究報告書)の発行
  - 災害時の資料レスキュー活動ネットワークの構築
  - 県博物館連絡協議会のスキームの活用

## 8 タイムスケジュール

- 平成26年4月～27年秋 第1ステージ「本格運用に向けての助走期間」
  - ・熊本県総合博物館ネットワーク整備開始
  - ・平成27年秋:熊本県総合博物館ネットワークの始動
- 平成27年秋～平成30年度 第2ステージ「大きく飛翔」
  - ・ネットワークセンターを中核とするサポート機能及びネットワーク機能の充実



## 第2章 各論



## 1 サポート機能

展示、学芸員による市町村等の支援、学習支援及び調査研究などの博物館活動を県内一円で展開すると同時に、資料の相互活用などにより県内博物館等のサポートを実施します。

### (1) 展示

- ① 県内博物館の収蔵資料を活用した展示
- ② 海外の博物館と連携した企画展
- ③ ネットワークセンター(現・松橋収蔵庫)収蔵資料を活用した展示
- ④ 県民が参画できる展示(民間研究団体やミュージアムパートナーズクラブ)

### (2) 学芸員による市町村等の支援など

- ① 専属の職員がいない市町村や博物館等に対する支援
- ② 展示会等を企画する総合プロデューサーの育成

### (3) 調査研究機能・資料修復機能の強化

- ① 調査研究環境の整備
- ② 資料修復センターの整備

### (4) 学習支援

- ① 出前講座、共催講座の開催
- ② ミュージアムパートナーズクラブの設立支援、活動支援

## (1) 展示

県内の博物館や市町村等と連携して、県内博物館やネットワークセンターの収蔵資料等を活用した、県民が熊本の自然や文化を再発見することができる魅力的な企画展を県内各地で開催します。

また、県内の民間研究団体やミュージアムパートナーズクラブとの連携を図り、県民が自らの活動成果を展示に反映できるよう支援します。

### ① 県内博物館の収蔵資料を活用した展示

県内の博物館の収蔵資料情報の共有化(熊本県博物館資料データベースの構築)と、博物館が収蔵資料を相互に活用できる仕組みづくりに向けて取り組んでいきます。

また、併せて県内の博物館が持つ貴重な資料について、複数の博物館が共同して調査・研究を進め、多角的な視点で新たな価値を見出し、これまで以上に魅力的な企画展を県内各地の博物館で開催します。

### ② 海外の博物館と連携した企画展

熊本県は、米国モンタナ州、中国広西壮族自治区、韓国忠清南道と姉妹提携を締結しています。これらの自治体との交流の一環として、姉妹提携先の博物館との共同企画展示を県内博物館等と協力して開催するなど、海外の博物館と連携した企画展の開催に向けて取り組んでいきます。

なお、平成27年秋、熊本県総合博物館ネットワークのオープニングイベントとして、モンタナ州など姉妹提携先との共同企画展の開催を目指します。

### ③ ネットワークセンター(現・松橋収蔵庫)収蔵資料を活用した展示

現在、松橋収蔵庫では、年4～5回の企画展を開催し、これをもとに学校や他の博物館等で年10回程度の移動展示を行っています。

今後は、誰もが展示を楽しめるような、五感を使った、見て、聞いて、触れることのできる展示を目指し、移動展示の内容を充実させ、県、市町村及び民間の施設等でネットワークセンターの資料を活用した企画展として実施します。

また、併せて、教育課程に対応し、学校で容易に取り扱うことのできる学校用企画展パッケージの開発に向けて取り組んでいきます。

これらの取組により県内どこに住んでいてもネットワークセンターの資料を活用した展示を見ることができるようになります。

#### ④県民が参画できる展示(民間研究団体やミュージアムパートナーズクラブ)

県内に多数存在する自然、歴史等の研究団体や高等学校等の同好会・科学系部活動は、調査・研究を行う能力はあるものの、その成果を展示につなげるノウハウを十分に持ち合わせていない団体もあるため、これらの団体と連携し、共同で調査や研究を行ない、その成果を共同展示としてまとめ、県内各地での開催に努めます。

また、県民参加の博物館活動の中核であるミュージアムパートナーズクラブが行った、植生調査や古文書読解などの活動成果を、県民が身近に感じることができ、地域に密着した展示として発表できるよう支援します。

##### \*ミュージアムパートナーズクラブ

自然や文化に対する理解を深めるため、自らの経験をもとに、展示、講座、自然観察会、調査研究など県民参加の博物館活動に取り組む自主組織。

## (2)学芸員による市町村等の支援など

専属の職員がいない市町村や博物館等に対し、企画展や講座等の開催を支援します。

また、県内博物館の学芸員を対象としてスキルアップ研修を行い、県民が参加したいと思える魅力的な博物館活動を企画・展開できる総合プロデューサーの育成を図ります。

### ①専属の職員がいない市町村や博物館等に対する支援

学芸員等の専門職員は、県民が参加・参画できる博物館活動を充実させるための重要なファクターです。しかし、県内には博物館等のない市町村や学芸員等がない博物館も多く存在することから、次の支援を行います。

- 学芸員や研究者等の専門知識や能力を、県内博物館や市町村の調査・研究や展示等に有効活用できるよう、県内の博物館や大学等研究機関の学芸員や研究者等の人材情報データベースの共有化を目指します。
- 県内の博物館や市町村にネットワークセンターのスタッフを派遣し、企画展の開催や収蔵資料の調査研究等を支援します。
- 今後、学芸員等の活動状況や、市町村及び県内各博物館のニーズ等を十分調査した上で、学芸員等の人材バンク設立について検討を進めます。

### ②展示会等を企画する総合プロデューサーの育成

これからの博物館には、展示内容の質の高さはもちろんですが、同時に観覧者を引きつける魅力や、時にはエンターテインメント性も求められます。

そのために、誰でも興味が持てる質の高い企画展を開催できるよう、講座・自然観察会・企画展等ケースに応じて必要な要素を組み合わせる高い企画能力をもち、時代のニーズを把握したプロモーション活動や広報活動も行える、博物館活動の総合プロデューサー的な能力を有する学芸員等の育成を図ります。

### (3) 調査研究機能・資料修復機能の強化

熊本の自然や文化を理解するための貴重な資料も、十分な調査研究を行うことで、はじめてその価値を認識することができます。そのため、ネットワークセンターに個々の博物館では設置できない電子顕微鏡や3Dスキャナーなどの調査研究機器や資料修復機材を整備し、県内博物館の調査研究及び資料修復の拠点化を図ります。

#### ① 調査研究環境の整備

最新の調査研究を行なうためには様々な調査研究機材が必要となります。しかし、高度な調査研究機材を個々の博物館で整備することは困難です。

ネットワークセンターでは、光学顕微鏡では不可能な高倍率での観察を行なうための電子顕微鏡、資料を破壊せずにその内部構造を観察するためのソフトX線CTスキャナー、生物種の特定に必要なDNA分析装置、非接触で古文書等をデジタル化することが可能なフェイスアップスキャナーなどの資料調査研究機材を導入し、県内博物館や市町村等が共同で利用できる調査研究センターの設立について検討を進めます

また、調査研究のための競争的資金獲得の代表的な制度である、文部科学省科学研究費(科研費)の利用申請機関としてネットワークセンターが認定を受けることを目指し、県内博物館との共同調査研究を含め、ネットワークセンターや県内博物館の調査研究活動の更なる充実を図ります。

#### ② 資料修復センターの整備

旧家の蔵や納屋で長年保存されてきた古文書や美術工芸品、生活用具や外気にさらされるお堂に安置された仏像などは、害虫による被害や経年劣化により傷んでおり、博物館資料として収蔵しても修理・修復が必要となることが多いのが現状です。このような場合、現在は県外の専門業者に委託して行なうことが一般的ですが、運送の手間や期間、さらには破損等を考えると身近な県内に修理・修復できる環境が整っていることが理想です。このため、今後、県内のニーズや先進事例等を十分調査し、資料修復センターの整備を検討します。

##### ■ 整備機材等の例

- ・梳き嵌機材(古文書修復)
- ・樹脂含浸機材(木器の保存処理)
- ・凍結乾燥機(木器処理、水損資料の劣化抑制)
- ・屏風や仏像など大型資料の修復が可能な作業場

## **(4)学習支援**

県民を対象とした講座、講演、自然観察会等について、誰もが気軽に参加できるようにメニューの充実を図り、県内各地域で実施します。併せて県内博物館等に対して講座等の開催を支援します。

また、受講者、参加者が継続的に博物館活動に関われるよう、ミュージアムパートナーズクラブの増加や活動の活性化を図ります。

### **①出前講座、共催講座の開催**

県内どこに住んでいても県民が博物館活動に関わることができ、自らの知的欲求が満たされる機会を提供できるように、ネットワークセンター主催の出前講座(講師派遣、移動体験教室、自然観察会等)の実施に加え、県内博物館等に対して講座等のメニュー充実を支援します。

### **②ミュージアムパートナーズクラブの設立支援、活動支援**

県民参加の博物館活動の中核である、ミュージアムパートナーズクラブの市町村単位での設立を支援し、クラブの全県的な育成を進めます。

併せて、既存のミュージアムパートナーズクラブに対する指導・助言を継続することによって、自ら調査・研究を行い、情報発信できるような会員の育成を進めます。

また、ミュージアムパートナーズクラブとの共同調査・研究を進め、その活動成果を共同企画展などの形で発表できるよう支援するとともに、県民が博物館活動に積極的に参画できる機会の充実を図ります。

## 2 ネットワーク機能

収蔵資料情報の共有化や学芸員の資質向上に関する研修会をはじめとする県内博物館及び市町村等のネットワーク構築を図ります。

また、県民がポータルサイトやイベント等を通じて、県民が県内のどこに住んでいても、博物館活動に主体的に参加できるような環境づくりに取り組みます。

### (1) 情報・施設間のネットワーク

- ①熊本県博物館資料データベースの構築及びポータルサイトの作成
- ②県や市町村、民間の博物館等施設との連携
- ③海外の博物館等とのネットワーク構築

### (2) 研修・イベント等のネットワーク

- ①学芸員の、展示や資料保存に関する技能研修、意見交換会の開催
- ②体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催

### (3) 調査研究・運営管理等のネットワーク

- ①共同研究の実施、紀要(調査研究報告書)の発行
- ②災害時の資料レスキュー活動ネットワークの構築
- ③県博物館連絡協議会のスキームの活用

## **(1)情報・施設間のネットワーク**

県内博物館の収蔵資料情報を統合する熊本県博物館資料データベースや展示・イベント等の情報を網羅したポータルサイトの構築を図ります。

併せて、県の博物館等施設や姉妹提携先等海外の博物館とも資料情報等の共有化を図ることなどにより、情報ネットワークの構築を図ります。

### **①熊本県博物館資料データベースの構築及びポータルサイトの作成（一部再掲）**

県内博物館及び博物館等がない市町村の資料情報も含めたデータベースを構築することにより、県や博物館、市町村等で収蔵資料情報を共有し、展示や調査研究のための資料活用が更に活性化するよう取り組みます。

また、県内博物館のポータルサイトを構築し、県内博物館の資料情報(画像や解説)やイベント情報に、県民が県内のどこに住んでいてもインターネットを通じて容易にアクセスできる環境を整え、博物館を身近な存在として感じ、自らの興味・関心に基づいて博物館活動に参加・参画できるよう図ります。

### **②県立の博物館等施設、市町村や民間の施設等との連携**

県立の博物館等施設である県立美術館、県立装飾古墳館、県伝統工芸館、県立図書館・近代文学館とは、資料・情報の相互活用や共同企画展を行うなど連携を密にして活動を行ないます。併せて、同様の取組みを市町村や民間の施設とも可能な範囲で行います。

### **③海外の博物館等とのネットワーク構築(一部再掲)**

姉妹提携を結んでいる米国・モンタナ州、中国・広西壮族自治区、韓国・忠清南道の博物館の資料をネットワークセンターからインターネットで検索できる仕組みの構築を目指します。また、相互訪問等の交流を重ね、定期的にネットワークセンターと共催による企画展の開催に努めます。



## (2) 研修・イベント等のネットワーク

県内市町村や博物館等の学芸員等専門職員の技能向上等を図るため研修会や情報交換会を開催したり、合同イベントを開催します。

### ①学芸員の、展示や資料保存に関する技能研修、意見交換会の開催

学芸員等の総合プロデューサー的資質の向上に加えて、県内の博物館活動の質を高めるため、資料保存、展示技術、展示評価などの技能を向上させることを目的として、県内学芸員等を対象とした研修会の定期的な開催に努めます。

また、県内博物館が、連携・協力して事業展開を図るため、各博物館の取組みの紹介を行ったり、共同事業などについて調整する情報交換会を開催します。

### ②体験学習、ワークショップなどの合同イベントの開催

国際博物館の日(5月18日)やくまもと教育の日(11月1日)などに併せて、県内博物館が一堂に会した合同体験学習会、合同ワークショップなどの合同イベントを開催し、県内の博物館が行なっている活動をより多くの県民に紹介することにより、博物館活動へ参加する県民の裾野を広げていきます。

### **(3)調査研究・運営管理等のネットワーク**

県内博物館や民間研究団体等が共同研究を行うような取組みを進めるとともに、災害時の被災資料レスキュー体制の構築や県博物館協議会のスキームの活用など、調査研究・運営管理等のネットワークの構築を図ります。

#### **①共同研究の実施、紀要(調査研究報告書)の発行**

ネットワークセンターが中心となり、県内博物館や民間研究団体等と共同研究を進め、研究の成果を発表していきます。また、できるだけ多くの学芸員が研究成果を公表できるよう、研究紀要の定期的な共同刊行を行い、共同研究の成果の掲載などについても検討していきます。

#### **②災害時の資料レスキュー活動ネットワークの構築**

阪神大震災や東日本大震災の教訓から、博物館資料や文化財が被災した場合、そのレスキューには、被災後速やかに水洗、乾燥などの作業を行なうことが大切であることが判明しました。

このような教訓を踏まえ、県内博物館の学芸員で資料レスキューのための研究会を作り、資料レスキューの方法、体制について研究し、本県で災害が発生し博物館資料や文化財が被災した場合、速やかにレスキュー活動が行えるよう、必要な体制と機材の整備に努めます。

#### **③県博物館連絡協議会のスキームの活用**

熊本県総合博物館ネットワークの取組みを進めるため、熊本県博物館連絡協議会との連携・協力を深めて参ります。

### 3 ネットワークセンター

収蔵資料のデータベース化を含む相互活用の仕組みづくりや地域の博物館の学芸員等を対象としたスキルアップ研修の実施、収蔵資料の修復といった支援・サポートを実施します。

#### (1) 必要性

熊本県総合博物館ネットワークには県内の博物館はもとより、学校、民間研究団体、市町村等、さまざまな機関・組織が関わります。従って、これらの機関・組織と連携を図りながら、ネットワークに参加する全ての博物館が全体であたかも一つの博物館のように「活動する」「参加する」「成長する」新たな『熊本タイプ』の博物館となるためには、ネットワークのハブとなる中核施設が必要です。

ネットワークセンターには、ネットワークに参加する博物館(市町村)を支援・サポートする機能、県内博物館資料データベースの運営や学芸員の研修などのネットワーク機能が必要です。そのため、県では現在の松橋収蔵庫の機能を充実させることで、熊本県総合博物館ネットワークのネットワークセンターとします。

#### (2) 施設・設備

熊本県総合博物館ネットワークのサポート機能、ネットワーク機能を十分に発揮できるよう、必要な施設や設備の整備に取り組んでいきます。

#### (3) 付帯施設

ネットワークセンターに隣接してネットワークセンターを訪れる人々が「集い、遊び、憩う」ことができ、地域住民もレクリエーションを楽しむことができる、多目的な空間としての広場を整備します。

併せて、ネットワークセンターのエントランスは、熊本県総合博物館ネットワークの中核施設にふさわしい品格ある雰囲気を持つような環境整備に向けて取り組んでいきます。

#### (4) 活動

- 県内全域での県民参加による資料収集、調査研究、展示、学習支援などの博物館活動及びネットワークセンターでの資料管理、保存の活動。
- 県内博物館や市町村が行なう調査研究展示、学習支援等をサポートするための活動。
- 県内博物館資料データベースやポータルサイトの構築・運用や学芸員の研修等を行うことなどによる、ネットワークを機能させるための活動。
- ネットワークセンター(及び付帯施設)の施設を運営管理する活動。

## **(5)管理運営**

### **①基本的な考え方**

熊本県総合博物館ネットワークを十全に機能させるためにはネットワークセンターを効果的、効率的に運営することが必要です。このために、特に以下の視点が求められます。

- 総合博物館ネットワークの運営に当たっては、経営的な感覚をもって最少の経費で最大の効果を上げること。
- より多くの人々がネットワークを利用できるよう柔軟な管理運営を行うこと。
- 展示、調査・研究、資料収集、学習支援等の博物館活動を効果的に行うために、専門的な人材の確保に努めること。

### **②管理運営の主体**

前項の基本的な考え方をもとに、指定管理者制度を含めた民間活力の導入を検討します。